

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	2372201778		
法人名	社会福祉法人 愛知慈恵会		
事業所名	グループホーム田苑そよ風		
所在地	愛知県一宮市萩原町東宮重字蓮原24番地1		
自己評価作成日	平成25年 9月25日	評価結果市町村受理日	平成26年 2月10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.jp/23/index.php?action=kouyou_detail_2013_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2372201778-00&amp;PrefCd=23&amp;VersionCd=022">http://www.kaijokensaku.jp/23/index.php?action=kouyou_detail_2013_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2372201778-00&amp;PrefCd=23&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	株式会社 中部評価センター		
所在地	愛知県名古屋市長区左京山104番地 加福ビル左京山1F		
訪問調査日	平成25年10月17日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

<p>①環境美化に重視しつつも清潔な施設に保てるよう掃除や庭の手入れを欠かさず行っています。                  ②利用者様には、『人として生きる』事を支援するという視点に立ち専門職という意識を持ってケアにあたっています。                  ③家族様・来訪者には『おもてなし』精神で迎え少しでも長く利用者として接することができるよう支援しております。</p>
--

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

<p>「おもてなしの精神」を基本に、家族にここに入っていることを自慢してもらえるホームを目指している。ゆるぎない支援方針(おもてなし)の下での職員育成が職員のスキルアップに繋がり、介護のプロとして「おもてなし」を当たり前を受け止め、やりがいをもって日々向上を目指している。その成果を裏付けるように、家族の来訪は多く、今回家族アンケートからも、ホームに対する家族の信頼、絆の深さを感じることができる。家族に「ご来訪ください」と声掛けをするだけでなく、家族が「行きたい」と思って足を運んでくれる環境づくりに努め、年に4回の家族交流会は大盛況で、内3回の食事は、全て手作りホームが提供している。「理想の施設を作りたい」という、法人理事長の思いと、それに応えようとする職員のポジティブな思いは、確実に家族を巻き込んで、「思い」の実現に向かっている。</p>
--

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりがが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	【認め合う気持ち・ゆとり・穏やかな生活】	ホーム独自の理念「認め合う気持ち・ゆとり・穏やかな生活」の下、日々の支援の中で、まずは職員がこうなることを意識して取り組んでいる。職員会議等で、具体的実践につながっているかを、常に話し合っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	・隣接する福祉施設との交流(夏祭り・地域の盆踊り参加) ・地域の学生受け入れ・ボランティア(園芸・習字・エレクトーン)として来ていただいている。	小学校で行われる町内の祭りに出かけ、地域の方と交流している。地域の方(退所した利用者家族が管理者を推薦)からの介護相談にも対応し、関係施設への橋渡しも行っている。24時間稼働の工場に災害時の連携を依頼し、頼りになる存在となっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	・実習生やボランティアの受け入れを積極的に行っている。 ・買い物や喫茶外出など交えて地域の方とふれあいを持つようにしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	・奇数月(2ヶ月に1回)・第4土曜日に開催する事に定め、参加人数を増やす工夫と家族会議の中での何気ない会話にも耳を傾けサービスに繋げている。	利用者、家族、地域代表、市職員、地域包括支援センターの参加で、制度通りの運用がある。行事報告に留まらず、健康状態から、家族の面会回数等、詳細な報告を行い、参加者から多くの意見・質問・アドバイス等をもらえる工夫を行い、活発な意見交換の場づくりに努めている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	・運営推進会議には、地域包括支援職員・市役所担当者の出席を促し、相談・指導をもらっている。	運営推進会議でホームの活動報告を行い、運営に関する相談をしている。適切な助言と指導をホーム運営に反映させている。市職員とは良好な関係を構築している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	・身体拘束の勉強会を行い職員の共通認識を得ているが、危険回避のため車椅子拘束ベルトを使用している利用者が1名いる。(家族同意書を頂くときには本人の状態説明をしている)	代表で1名が外部研修へも参加し、内容を持ち帰って発表し、ホーム内で話し合いを行い、正しい知識の習得を図っている。利用者の重度化が進み、家族からの安全面での意向にも配慮しながら、状態化しないように常に意識した支援を行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	・法人研修会において虐待防止法の勉強会に参加しワーカー会議において伝達を行った。 又、傷や怪我があった場合には会議の場で対応の振り返りを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	・活用には至っていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	・入所前に契約書や重要説明事項などの書類をもとに、ゆっくりと話あう機会を設けている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・家族会（運営推進会議）や面会時には意見・要望の聞き取りを必ず行っている。更に家族会時には、食事を囲み和んだ話しやすい環境を作るようにしている。	年4回の家族会、内年3回の食事会には多くの家族が参加している。職員総出で早朝から準備した昼食を利用者を囲んで食べながら、顔見知りになった家族が打ち解けて話せる機会を作り、率直な意見・要望をもらっている。運営推進会議の後の交流会でも意見聴取を図っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	・月1回のワーカー会議にはフロアーリーダーが中心となり職員の意見・提案を議事録に載せ代表者（施設長）の意見を貰っている。	月1回の会議には全職員が参加している。新人職員も必ず発言できる環境を整え、活発に意見交換を行っている。管理者は働きやすい職場環境づくりの一環として、職員意見・提案の把握と運営への反映に努めている。法人も管理者や職員の意見・提案に耳を傾けている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	・職員の不調サインに気付いたときには上司にタイムリーな報告を行ない適切な対応をしてもらっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・法人内外の研修に積極的に参加している。 ・職員の希望の研修を取り上げてくれ前向きに検討してくださる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	・一宮市の施設部会に参加している。 ・法人内のグループホームと連携を執り意見交換を行いながら勉強会や人材育成に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	・入所前に事前見学をして頂き、利用者の気持ちや家族の要望などをじっくり訊くように努めている 又、事例を用いて、できるだけ家族の不安解消に繋げられるようにお話をさせていただいている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	・家族の方の気持ちが話しやすいよう、家族の方だけと話す時間を設けています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所判定の時点で、在宅部長・介護職員・ケアマネージャー(管理者)などさまざまな職種にて検討している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	・本人の限界点を見据えつつ可能性を応援する行動支援を行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	・家族会・誕生会・面会時には必ず家族・利用者・職員を交えた共通の話題で気持ちよく過ごして頂ける雰囲気づくりに努めている。中でも、本人にとって何が一番の望みかを伝えたり訊かせてもらったりしている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	・家族協力による外出・外泊が出来ている。 ・ボランティア様も長い付き合いとなった今では、(8年間)利用者との馴染みの関係になってきている。	友人・知人の来訪があったり、家族旅行に出かけたりと、利用者のそれぞれを支援している。家族協力で馴染みの美容院へ出掛けたり、お墓参りへ行ったりを実現している。趣味や習慣の継続支援も行い、盆栽好きな利用者は現在もホームで盆栽の手入れに余念がない。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	・馴染みの関係になれるような座席配置の工夫や何気ない毎日の光景(利用者への介助場面)などを見る事により他者への思いやり・支えあえる環境に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	・退所されて何年か経った今でも、利用者家族からの電話や訪問などを受け相談に応じてる。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	・意思疎通が出来るうちは、なるべく利用者との会話や表情などを読み取りながら本人が望む生活を聞き出す事に努め困難になった場合でも家族に本人の気持ちを伝えながら勧めている。	職員は日々の利用者の様子や表情、しぐさ等に注視し、気づきをミーティングノートに記録している。家族との話し合いの内容も同様に記録し、職員全員で共有している。内容を基に、職員会議で利用者・家族の意向を把握・周知している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	・入所時のフェイスシートと家族からの聞き取り情報・入所してからの本人の生活サイクルに合わせたケアを行なっている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	・毎日の暮らしでの気付きや変化を職員間で伝えあう事で状況に応じた対応を行えるように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	・家族の面会時には、必ず適切なケアかどうかについての内容を織り込むようにお話させて頂いており、本人や家族からの要望に応じた計画書になるように努めている。	見直しは6か月を基本にしている。毎月のモニタリングを実施し、計画の実施状況を検証している。利用者・家族のメンタル重視の介護計画で、利用者のその人らしさを支援できるように努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	・朝の申し送り、介護計画、ミーティングノート、業務日誌・などの情報を下にカンファレンスを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	・出来るだけ家族の要望にも応じられるよう上司の相談の下、支援をおこなっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	・音楽療法・エレクトーン教室・園芸療法・習字教室・学生ボランティア・慰問の積極的な受け入れを行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・月2回以上の往診と年1回の健康診断 ・総合病院の受診送迎・通院時の支援 ・かかりつけ医師と家族による終末医療相談も行っている。	利用者・家族と医師が契約を行い、現在利用者全員が協力医の往診(月2回)を受けている。マツサージ・歯科の往診支援もある。他科・専門医受診が必要な場合は、職員付添で受診し、家族・協力医・専門医を含めて情報を共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	・看護師不在のため、協力医による頻回の往診時に相談する事や電話報告にて適切な受診が出来ている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	・管理者が関係者に対して相談や配慮に努める事で家族にも信頼してもらっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	・運営推進会議時に看護師が不在である事を説明・理解していただいた上で終末期まで施設で暮らしてもらいたいという思いでケアに臨んでいる。 ・医師と家族で、終末ケアについての相談も行ってもらっている。	医師と家族の話し合いを重ねながら、医師の判断も含めて方針を決定している。利用者・家族の希望に沿って、ホームでできる限りの支援を行う方針は職員周知を図っている。医療・他施設移行も含め、本人にとって最善の方法を支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	・救命処置の講習会に参加した内容を職員全員に伝達していきながら救急マニュアルを準備するなど体制を整えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	・併設施設の指導の下年2回の消防災害訓練と設備定期点検を欠かさず行っている。 又、運営推進会議の場でも報告し地域・家族からの助言も参考にさせてもらっている。	併設の特別養護老人ホームと合同で、年2回、消防署立合いで訓練を実施している。避難誘導や通報訓練、避難経路の確認等、利用者の安全確保に熱心に取り組んでいる。24時間稼働の工場に連携を依頼したりと、体制を推進している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	・利用者の思いや気持ちを大切に言葉掛けや対応が、できるように職員同士で態度・言い回しを考え答えるようにしている。	職員は利用者と接するときは目線を合わせ、やさしい笑顔での接遇に努めている。適切な言葉づかいや、スピーチロックに気を配り、1日に1回は利用者の笑顔が見える支援を目指している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	・強制や決め付けはせず利用者、自らの行動に委ねている。 ・常にコミュニケーションを図る事により、自己決定できるように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	・一日の流れはほぼ決まっているが、利用者のペースに合わせた声かけ・誘導を行っている。 ・出来る事は本人に希望に合わせたケアを行なっている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	・季節の洋服の入れ替えを利用者了解の下行いできるだけ自分で、できるように配慮している。 ・移動美容や洋服の買い物は、自らの好みを伝えてもらうようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	・食事の後片付け等職員一緒におこなっている。 ・メニューが片寄らない工夫や季節の食材を必ず取り入れ季節感や行事を楽しんでいた。	利用者の嗜好を考慮しながら、メニューが偏らないように工夫している。職員も同じテーブルを囲み、ゆったり会話したり、介助しながら同じ料理を楽しんでいる。おせち料理は職員総出で準備する等、手作り料理にこだわって、おもてなしの料理を提供している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	・食事・水分チェックを行い栄養確保のための工夫や嗜好食を用意しておくなど配慮している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	・毎食後の歯磨きや嗽を促し、出来ないところを手伝うなどしている。 ・歯科受診を定期的に行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	・職員全員が排泄パターンを周知した後、排泄当番を決める。当番職員がいかにその日の排泄の失敗をなくすかを意識する事で、排泄自立度があがってきている。	排泄チェック表やその日の個々の水分量を把握しながら、トイレでの排泄支援を基本に支援している。利用者と家族の負担を考え、自立の維持、失禁の減少に努め、オムツやパッドのコスト削減につなげている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	・朝の申し送り時に心身状態の様子を話しあい個々に応じた工夫を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	・月に一人当たり15回以上の入浴を楽しんでもらっている。入浴中の会話は利用者とのコミュニケーションツールとして利用者の本音が訊ける場所となっている。	まるで温泉旅館の浴場のような浴室で、ヒノキ風呂の入浴を楽しんでいる。2人介助での入浴支援が必要になった利用者もおられるが、支援できる限り、馴染んだ浴室で入浴してもらえるように、同意識で取り組んでいる。運営推進会議では、個人毎の入浴回数や様子を報告している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	・各自、居室にて好きにくつろいでもらえる環境を整えている。 ・夜間の浅眠には、昼寝などをしてもらい一日のサイクルを整えられるよう体操など取りいれている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	・個人別薬ファイルを作成し、家族・職員がいつでも見れるように保存している。 ・症状や状態変化がある場合には、往診ノートに記載しすぐさま医師へ報告・相談している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	・どんな時に輝いているかなどを職員間で情報共有に努め応援・支援している。 ・家族にも理解してもらい協力をお願いしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	・個別外出が多くなりつつあるが、できるだけ支援できるよう努めている。 ・家族の協力により外出・外泊(温泉)を実施している。また、家族の希望によっては、家族代行の送迎を行う事もある。	毎日の散歩、居室縁側や中庭の縁側での日向ぼっこ、お弁当を持ってのピクニック等、利用者全員に公平に戸外に出かける機会を作っている。家族外出も積極的に支援するほか、個別対応での外出にも可能な限り対応している。	利用者の重度化を考慮すると、全員外出が難しくなり、行ける人だけの外出に不公平の意見もあるが、外出が難しい利用者にも合わせる不公平にも配慮し、外出する人、日光浴をする人等、個別やグループでの対応の工夫が望まれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	・基本的には管理者が管理しているが、家族の利了解がある方は所持していただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	・公衆電話はないが、希望者には電話使用が可能としている。 ・年賀状などを本人に渡す事や、レクリエーションとしての季節の葉書を出している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・施設外には木や花を沢山、育てており施設内では、季節を感じてもらえるような生花・レイアウトにしている。来客者・面会者には、落ち着く清潔な施設の印象だと言ってもらっている。	ホーム内は清掃が行き届き、まるで旅館のおもてなしの雰囲気がある。廊下にはソファや応接セットを配置し、中庭を眺め、季節を感じながらゆったり過ごせる配慮がある。季節毎に浴室、トイレ、通路等の暖簾を替えて季節感を醸し出し、純和風の贅沢な空間を居心地よく演出している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	・食堂以外に玄関・廊下にソファや椅子を置き独りでも楽しめるように工夫している。 ・家族からも花を提供して下さるなど皆で作らあげた施設だと思う。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	・家族の写真や使い慣れた家具を配置する事で直ぐに自分の部屋だという認識をもらえ、部屋でくつろいだり自ら、部屋の環境整備を行ってくれている。	全居室が純和風の障子扉で、施設感を全く感じることがない環境がある。各居室の縁側は、日向ぼっこをしながら外の景色を眺めたり、そのまま庭に出たりと、寛ぎの場所の一つとなっている。居室内には、馴染みの物品や趣味の物品を配置し、利用者の好みに合わせた居室づくりを支援をしてい	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	・食卓に花を飾ったり、廊下など見通しを良くするためソファの配置を工夫したりして、職員の姿が絶えずある、気軽に訊ける環境に配慮している。		

### 目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。  
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	49	利用者の重度化を考慮すると全員外出が難しい 外出数の不公平差が出てしまっている。	外出が難しい利用者・元気に外出できる利用者共に公平に出かけれる外出計画を支援していきたい。	外出日程を取り決めその日に合わせた職員の人数確保を行っていきます。 利用者の体調を考慮し体調に合わせた外出内容にしていきます。(ドライブや外出先での散歩など) 外出できなかった利用者にも不公平差がでないように年間を通じて数を合わせていきます。	12ヶ月
2					ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。